

「お坊さんの手紙」 十二通目(平成二十二年二月)

新年を迎えたのが、随分昔のように感じながらも、あ〜という間に二月が過ぎてしまったと感じる何とも矛盾した感覚で二月を迎えます。

節分

二月のメインイベントは、節分です。節分とは、豆まきや厄払いが思い浮かぶと思いますが、その前に…そもそもの節分とは何でしょうか？

節分とは、読んで字のごとく「禾(こめ)の節(ふし)の分(わかれ)目」という意味です。日本には四季があり、その中でも節分は一回あることになりました。立春・立夏・立秋・立冬、それぞれの前日が節分に当たります。ところが、日本では冬から春になる時期を一年の境として特に尊ばれたため、次第に節分と言えば、立春の前日のみとすすようになりました。ということは、古来の風習に習うのであれば、この二月が本当のスタートとなります。

豆まき

古くから、節分(禾の節の変わり目)には、邪気(鬼)が生じると考えられていました。そうなる「悪い気は払いなきゃ!」と考えるのが自然の流れであり、平安時代の宮中では、節分(立春を一年の境とした)に旧年の厄や災難を払い清めるため、追難(ついな)と呼ばれる中国から伝えられた儀式を執り行っていました。それが室町時代以降になると豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間へと定着し、現在まで続いています。

では、なぜ豆をまくのでしょうか？それは、豆は「魔滅(まめ)」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、無病息災を祈る意味があるからです。豆まきは、一般的には一家の主かその年の干支生まゆの人がまきます。よく豆は、炒り豆を使用します。これは、「魔の目を射る」に通じることや、生の豆だと、珍しい豆に芽が出てしまいう縁起が悪いとされているからです。また、地域によって違いはありますが、自分の数え年の数だけ豆を食べると病気にならず健康で一年を過ごせると言われています。

厄払い

昔から、皆の願う所は、一年間を無事に過ごせることであり、そのために、節目節目に無病息災を祈る行事を営んできました。その一つの節目が節分であり、この時に厄払いのご祈禱(ごきとう)も盛んに行われてきました。特に厄年に当たる年には、懇に厄払いを行いました。浄泉寺でも、この節分に合わせて、二月九日に節分大祭を行います。特別祈禱・豆まき・福引きを行い、厄や災難を払い、福を授かり、年中の安泰を祈願します。どなたでもご参加いただけますので、お時間ございましたら是非お参り下さい。

日本で行われている年中行事には、それぞれに深い意味があり、そこには、総じて、人々の幸せへの願いが込められています。形だけではなく、そこに込められている意味を知ること、とても大切な事だと思います。節分だけではなく、日本には、禾の節に応じた様々な文化や行事が残っています。そのひとつひとつが、私たちの心を豊かにし、日々の暮らしや人生を彩っていくものであると感じています。

